

事業成果報告書

〔取組Ⅰ〕 都道府県教育委員会による小中一貫教育推進に関する取組

1. 都道府県教育委員会名 : 富山県教育委員会
2. 取組の名称 : 平成29年度「小中一貫教育推進事業」
※事業完了報告書表紙の「1. 事業の名称」と同じ名称になります。

3. 事業の実績

(1) 事業のねらい

・県内市町村の小中一貫教育に関する多様なニーズに応えられるよう、情報収集に努めるとともに小中一貫教育推進のために必要なポリシーやカリキュラム、リーフレット等を検討し小中一貫教育について研究を進める。
・協力市町村を舟橋村に指定し、舟橋村の研究事業並びに協力校の取組に適宜支援を行い研究を深めるとともに小中一貫教育の成果と課題を明らかにして、県内の小中一貫教育の普及を図る。

※〔取組Ⅰ〕〔取組Ⅱ〕の両方を含む事業全体のねらいについて、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(2) 事業の実施状況

・県教育委員会においては、先進地区の視察を行い支援体制や効果的な取組等について情報収集するとともに、県小中一貫教育調査検討チームを組織し、小中一貫教育ポリシーやカリキュラム集、リーフレットについて検討した。
・舟橋村小・中学校一貫教育推進協議会や舟橋小・中学校研究発表会において協力校の求めに応じて指導・助言を行った。
・協力校の研究発表会で、公開授業に加えて、文部科学省初等中等教育局初等中等教育企画課教育制度改革室調査官の講演会を開催し、全国の好事例を紹介していただいた。

※〔取組Ⅰ〕〔取組Ⅱ〕の両方を含む事業全体の実施状況について、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(3) 事業の成果

・小中一貫教育ポリシーやカリキュラムの素案を作成した。
・小中一貫教育の概要や特長を伝えるリーフレットの素案を作成した。
・県外の先進地区を視察し、取組の成果や課題についての知見を得た。
・新たに研究の指定を希望する地区や小中一貫教育の導入について研究する地区が増えた。
・協力校における取組から、小中一貫教育の成果と課題が明らかになった。

※〔取組Ⅰ〕〔取組Ⅱ〕の両方を含む事業全体の成果について、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(4) 今後の取組予定

・県小中一貫教育推進連絡協議会の設置
・小中一貫教育ポリシーの策定・周知
・9年間を見据えたカリキュラム集の作成
・小中一貫教育推進のためのリーフレットの作成・配付
・先進地域の視察と全国サミット等への参加
・小中一貫教育に関する研修会の開催

※〔取組Ⅰ〕〔取組Ⅱ〕の両方を含む事業全体の今後の取組予定について、簡潔に記載すること。
※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

4. 取組 I の実績

(1) 取組のねらい

県内の市町村において、小中一貫教育の導入が拡充するよう情報の収集や資料の作成等を行い普及啓発を図るとともに、協力市町村の取組を支援する。

※ [取組 I] において実施した具体的な取組のねらいについて、簡潔に記載すること。
 ※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(2) 取組 I の実施状況 (平成29年度)

4月	・舟橋村教育委員会、舟橋小学校、舟橋中学校との打合せ及び助言
5月	・県小中一貫教育推進事業の推進体制整備 ・県小中一貫教育調査検討チーム組織
6月	・国と県との委託契約締結 ・県と協力市町村との委託契約締結
7月	・第1回舟橋村小・中学校一貫教育推進協議会における講話
8月	・第1回県小中一貫教育調査検討チーム協議会 (ポリシー、カリキュラム集、リーフレット検討) ・先進市視察(津市)
9月	・舟橋村教育委員会、舟橋小学校、舟橋中学校へ助言
10月	・舟橋村教育委員会、舟橋小学校、舟橋中学校へ助言
11月	・舟橋村中間発表会
12月	
1月	・小中一貫教育全国サミット (京都市)
2月	・第2回県小中一貫教育調査検討チーム検討会 (ポリシー、リーフレット検討) ・第3回県小中一貫教育調査検討チーム検討会 (カリキュラム、リーフレット作成) ・第2回舟橋村小・中学校一貫教育推進協議会
3月	・今年度の成果と課題のまとめ

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。
 ※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。
 ※本事業から経費を支出した事項 (会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など) については、必ず記載すること。

(3) 取組の成果

・小中一貫教育ポリシー案の見直し
 ・リーフレットの骨子作成
 ・カリキュラム作成
 ・県内における小中一貫教育の現状の把握
 ・指導主事等への小中一貫教育制度化の周知

※ [取組 I] において実施した具体的な取組の成果について、簡潔に記載すること。
 ※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(4) 今後の取組予定

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 県小中一貫教育推進連絡会の設置 ・ 小中一貫教育ポリシー策定・周知 ・ 9年間を見据えたカリキュラム集の作成 ・ 小中一貫教育推進リーフレットの作成・配付 ・ 小中一貫教育に関する研修会の開催 |
|--|

※ [取組Ⅰ] における来年度以降の取組予定について、簡潔に記載すること。

※ 必要に応じて、適宜、枠を広げること。

5. [取組Ⅱ] を実施した協力市町村教育委員会等

通し番号	教育委員会等の名称	
Ⅱ-1	舟橋村教育委員会	

※ 必要に応じて、適宜、行を追加すること。また、通し番号は、Ⅱ-1、Ⅱ-2、…とすること。

事業成果報告書

〔取組Ⅱ〕市町村教育委員会等による小中一貫教育の域内全域での導入に向けた取組

通し番号

Ⅱ－１

※都道府県教育委員会において記載すること

1. 市町村教育委員会等の名称 : 舟橋村教育委員会

住所	:	富山県中新川郡 舟橋村佛生寺55番地
代表者職・氏名	:	教育長 高野 壽信

2. 取組の名称 : 舟橋村小中一貫教育推進事業

3. 取組Ⅱの実績

(1) 取組のねらい

舟橋村で育ったことに自信と誇りをもち、心身ともに健康でたくましい心豊かな子供の育成を図るため、小学校1校、中学校1校の地域性を生かしたこれまでの小中学校の交流・連携をさらに推進することで、小中一貫教育の実現を図る。
具体的には、目指す子供像や研究主題を小中学校で共有し、9年間を見通した系統性・連続性のある教育の在り方の検討、確かな学力の育成を推進する。

※〔取組Ⅱ〕において実施した具体的な取組のねらいについて、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。

(2) 取組Ⅱの実施状況（平成29年度）

4月	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の課題の確認・目標の設定 (全国学力・学習状況調査や教職員アンケート結果より) ・小中一貫教育推進委員会の開催 (取組の具体的な内容や方向性について) ・目指す子供像や研修主題の共有 (児童生徒の課題を踏まえて) ・小学校6年における教科担任制の実施：年間（理科、音楽、図工） ・小中で取り組む読書活動の在り方及び目的に関する共通理解、朝読書の実施 ・乗り入れ授業の実施：年間 (外国語活動：中学校教員→小学校6年、週1回) (クラブ活動の体育クラブ：中学校教員→小学校4年～6年、月1～2回)
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育推進委員会の実施 ・「読書通帳」の小中合同活用 ・「ふなはし『学び合い』スタイル」「〇〇上手になろう！」の掲示と実践開始 ・交流時の感想やメッセージの交換と掲示
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・交流活動の実施(中学生→小学生：ノーメディアに関する出前PR：朝の集会) ・「思いやり・感謝」をテーマとした道徳互見授業の企画と実施 ・「生活に関するアンケート」の実施 ・ネットルールづくりとネットルール宣言の共有

7月	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間「図書室探検と貸し出し指導」「お薦め本の帯作成」舟橋図書館との連携「読み聞かせ講習」「読み聞かせ練習」(中学校1年) ・小学校児童運営委員会と中学校生徒会執行部による「ふなはし祭り」合同ボランティアの企画と呼びかけ ・小中一貫教育推進協議会の開催 ・小中一貫教育推進委員会の開催
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校合同研修会の実施 ・カリキュラムの試案の作成(9年間を見通したカリキュラムの試案) ・部活動体験(小学校6年) ・小中一貫教育講演会の開催(講師:奈良教育大学教職大学院教授 小柳和喜雄氏) ・中学校図書委員会「読み聞かせ講習」、学童保育での「絵本読み聞かせ」の実施 ・中学校1、2年「読書紹介-舟橋村図書館の本を読んで-」作成 ・小中合同「ふなはし祭り」ボランティアの実施
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・小中合同ふれあいボランティアの実施 ・中学校1、2年作成「読書紹介」を舟橋村図書館、小学校でローテーション掲示 ・中学校1年による小学校での「絵本読み聞かせ」の実施 ・「チャレンジ!ノーメディアデー」の実施
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんなでチャレンジ・ノーメディアデー」の実施(家庭学習の定着) ・乗り入れ授業の実施(音楽:小学校教員→中学校合唱コンクール練習・2回) ・小中一貫教育推進委員会の開催
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育推進委員会の開催 ・合同授業[総合的な学習の時間] 「震災について考える」(中学校3年・小学校6年) ・「小中合同だより」の発行 ・中間発表会の開催(公開授業・シンポジウム・講演会)
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・「みんなでチャレンジ・ノーメディアデー」の実施(家庭学習の定着) ・地域学校保健委員会の開催「メディアに代わる時間の使い方」(中学校2年と小学校5年の交流活動)
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・交流活動の実施(中学校1年⇔小学校6年:メッセージ交流[新入生説明会の案内状・回答⇔感想・質問]) ・生活に関するアンケートの実施(家庭学習、読書活動及びゲーム・スマホ等の使用状況把握) ・小中一貫教育推進委員会の開催 ・合同授業[英語]「ゲームによるコミュニケーション活動」(中学校新入生説明会時・中学校1年、小学校6年)
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふなはし『学び合い』スタイル」の見直し ・50分授業の実施(小学5、6年生:5、6限:5日間) ・本年度の取組についての評価・検証(全教職員、児童生徒、保護者へのアンケート) ・小中一貫教育推進協議会の開催(次年度以降の取組や計画について) ・中学校1、2年による「テーマ読書」「ブック・トーク」の実施 ・「小中合同だより」の発行

※必要に応じて、適宜、行を追加すること。

※取組内容が分かる資料等がある場合は、適宜添付すること。

※本事業から経費を支出した事項(会議・研修会・フォーラム等の開催、視察、調査研究の委託など)については、必ず記載すること。

(3) 取組の成果

- ・目指す子供像や研究主題を小中学校が共有することで、全教職員が明確な方向性をもつことができた。特に「ふなはし『学び合い』スタイル」の活用により、学年や教科を超えた指導が可能となり、児童生徒に学び合う意欲と態度が育った。
- ・国語科の言語活動や特別の教科道徳、総合的な学習の時間、キャリア教育等で、9年間を見通したカリキュラムの試案の作成と実践により、小中全教職員が段階的かつ系統的な指導を意識するようになった。
- ・小中学校が具体的な学力向上策を実践し、互いに情報共有することで、児童生徒の表現力、思考力、判断力の向上が図られた。また、家庭学習の実施率についても向上した。
(全国学力・学習状況調査や富山県小学校教育研究会、富山県中学校教育研究会が実施する学力調査等校内で実施する生活に関する実態調査等で検証)
- ・小中合同学習を計画的に実施することにより、交流活動で得られた気づきがそれぞれの学年及び個の学びに生かされ、児童生徒が自らの思考の変容と深化を実感することができた。(中間発表会の合同学習、各授業終末での振り返りや単元の振り返り等で検証)
- ・小中で知的好奇心を刺激し、情操を豊かにすることができる読書活動を朝読書として、1日の生活の始まりに位置付けることにより1日の学校生活のリズムが整い、落ち着いた学習態度が見られた。また、立腰(正しい姿勢)を推奨し、徐々に小中共に身に付けてきている。読書活動を学校生活の軸に据え、交流・推進することは、読書への関心を高めるだけでなく、1日の始まりは読書から、これは小中共通であるという安心感を子供に与えることができた。また、中学生が小学校で読み聞かせ等を行うことで、小学生に喜んでもらえたという成就感、自らの成長の実感を得ることができた。小学校でも、様々な交流を通して、「読書が好きだ」と答えた児童の割合が約5ポイント増えた。
(生活に関する実態調査等で検証)

(4) 今後の取組予定

- ・目指す子供像や研究主題を小中学校が共有し、小中合同の研修会を開催するなど継続した指導を実施する。(「ふなはし『学び合い』スタイル」の確立)
- ・国語科の言語活動や特別の教科道徳、総合的な学習の時間、キャリア教育等において、9年間を通して教科を横断し体系的に指導するカリキュラム修正・改善を行う。

※ [取組Ⅱ] における来年度以降の取組予定について、簡潔に記載すること。

※必要に応じて、適宜、枠を広げること。